“つくれる文具屋さん”の木阪賞文堂がお届けする
輝くステキな女性にささげる、ミニ情報誌です。

いどばた辞典

第281号
2026年
11~12月号
発行

回覧

いきいき悠々生活

「ブラックフライデー」

ブラックフライデーとは、毎年11月の第４木曜日の「感謝祭」の翌日に行われる、大規模なセールイベントです。２０２６年のブラックフライデーは１月27日（金）になります。

この日はアメリカ合衆国を中心に始まり、現在では世界中で広く認知されています。多くの小売業者が大幅な値引きや特別なプロモーションを行い、消費者がクリスマスシーズンの買い物を始めるきっかけとなります。

起源は諸説ありますが、一般的にはアメリカの小売業者が感謝祭後の金曜日に大々的なセールを行い、店頭が混雑し、黒字（利益）が見込めるようになることから「ブラック」と呼ばれるようになったとされています。これが20世紀半ばから徐々に広まり、現在では消費者にとって待ちに待った年末商戦の開始を告げる重要な日となっています。

アメリカでは感謝祭の翌日だけの短期決戦が多いですが、日本では先行セールを始めるＥＣサイトや店舗が多く長期間開催が特徴です。家電や冬物衣料、おもちゃなどが特に安くなる傾向があります。



２０１４年に玩具量販店の「トイザらス」がブラックフライデーのセールを開催したものが日本で初めてとされており、２０１６年３月には当時の日本経済団体連合会会長が経済財政・再生相との会談で「日本版ブラックフライデーの導入」を提起したことで認知度が高まり、国内でも根付き始めたそうです。欧米のように「感謝祭の翌日」のような明確なスタートを定めにくいのもあり、11月中旬頃から順次スタートし、末日までの1~2週間程度で開催されることが多いそうです。

暮らしの「？」を解決します！



～ 時速30kmと決められた「生活道路」とは？ ～

2026年9月1日の道路交通法施行令改正により、中央線や車両通行帯のない生活道路の法定速度が時速60キロから時速30キロに引き下げられました。ポイントは以下のとおりです。

◆時速30キロが適用される道路：主に地域住民の日常生活に利用され、中央線や中央分離帯、車両通行帯がない一般道路（幅員5.5メートル未満の道路が想定されています）。

◆引き続き時速60キロの道路：中央線や車両通行帯がある、または往復の方向別に分離されている一般道路はこれまでどおり時速60キロです。



◆標識がある道路：道路標識などで個別に最高速度が指定されている場合はその指定速度が優先されます。

「生活道路」は、主に住宅街や商店街などで住民が通勤・通学・買い物・散歩など日常生活で利用する道路を指します。交通関係機関の定義では「自動車の通行よりも歩行者・自転車の安全を優先すべき道路」とされています。

近年、生活道路における重大事故が増加傾向にあったため、法改正は、生活道路での事故リスクの大幅な減少を目的としています。

いどばた調査隊

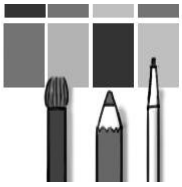
5歳若返るヒケツ

～大人の涙袋メイク～

涙袋メイクとは、目の下のぷっくりとしたふくらみ（涙袋）に明るい色やハイライト・影を描くことで、目を大きく立体的に見せるメイク方法です。小顔に見えたり、目が綺麗に映ったり、若々しく張りのある肌に見えたりといった効果も期待されます。コンシーラーなどで目の下のくすみやクマをフラットに整え、肌なじみの良いコンシーラーや明るいアイシャドウを黒目の下にのせ、立体感を出します。その後、ふくらみの下に薄いブラウンのパウダーや専用ライナーで軽く線を仕込み、指や綿棒でぼかして自然な陰影を作ります。

大人世代の涙袋メイクは、目元の「影」や「乾燥」などの肌トラブルをリセットしてから描くのがポイント。目元は皮脂が出にくく乾燥しやすいため、保湿を怠るとコスメがシワに溜まって老け見えの原因に。スキンケアの段階でうるおいを意識することで美しい目元をキープできます。また膨張色である白をのせるとどうしても浮いてしまうので、ベージュやコーラルピンクなどがおすすめです。





今月の処方箋

自分自身の信じるところを
正直に生きればいい。

草間 彌生（日本の芸術家）

先人の言い伝え ことわざ百選

待てば海路の日和あり

「まてばかいろのひよりあり」と読みます。今は状況が悪くても、辛抱強く待っていれば、航海日和（海に出るのに適した、良い天気の日や順風の日）が来るように、焦らずにじっと待っていれば、いつか必ず幸運やチャンスが巡ってくる……という意味のことわざです。中国の伝説にある「待てば甘露の日和あり」という言葉が転じたもので、「甘露」の意味が日本では分かりにくかったため、より身近な「海路」に変わったと言われています。「甘露」は政治家が良い政治をした時に天が降らすご褒美のような甘い液体を指しますが、場合によっては不老不死や仏の悟りなどにたとえられることがあります。



暮らしのリフォームQ&A

【Q】 大家族なので、できるだけお掃除が楽になるリフォームのアイデアを教えてください。

壁や床の場合は、表面の凹凸が少ないようにコーティングされた素材にすると、掃除しやすく、お手入れも楽になるでしょう。ただ、コーティングの方法によって、水や薬品への耐性や汚れ落ちの具合などに差が出ます。使用する場所にあわせた素材を選び、汚れ防止を重視するなら、洗剤を使わなくても乾拭きで汚れが落ちる素材がおすすめと言えます。壁のビニールクロスには水拭き可能なタイプも便利です。また、溝の少ないノンレールサッシ、フチなし形状の便器、表面を樹脂加工した和紙畳、自動洗浄機能が付いたユニットバスなど、お掃除のしやすさに着目した商品も多々あります。





美味食材を味わう

とっておき★旬レシピ

11月のとっておき★鶏肉といつもの調味料で♪ナシゴレン



【参考】キッコーマンホームクッキング https://www.kikkoman.co.jp/homecook/

ご存じですか？

ナシゴレンは、インドネシア語で「ナシ」が「ご飯」、「ゴレン」が「炒める」を意味し、文字通り「炒めご飯」を指します。インドネシアやマレーシアでは家庭料理の一つとして人気が高く、屋台・レストランなどでも広く親しまれています。同じエスニック料理の「ガパオライス」と混同されることがありますが、こちらはタイ料理で、具材とご飯を別々に調理するという違いがあります。具材を炒めてから、それをご飯の上にのせて提供されます。どちらも、目玉焼きを乗せたりチリソースやナンプラーで味付けしたり、鶏肉・ひき肉・エビなどを使います。

懸賞に応募して得しちゃおっ！

スティック型ロールクッキー「ピコラ」発売50周年
可愛いクッションやブランケットが当たるイベント開催中！

くるくるわくわく♪ピコラ50thキャンペーン

ピコラ（Picola）とは、ヤマザキビスケット（旧ヤマザキナビスコ）が製造・販売する、軽い食感のスティック状ロールクッキーです。薄く焼いたクッキー生地をくるくると巻き上げた、筒状のユニークな形をしています。サクサクとした軽い口当たりが特徴で、巻き上げたクッキーの内側には、チョコレートやいちごなどの風味豊かなクリームがコーティングされています。そのまま食べるだけでなく、パフェやアイスクリームのトッピングとしてもよく使われます。

その発売50周年を記念して「くるくるわくわく♪ピコラ50thキャンペーン」が行われています。レシートをWEBにアップロード、または、はがきに貼って送ると、抽選でピコラグッズが当たります。

第1回締切りは終わっていますが、第2回・最終の締め切りは12月31日（木）ですから、まだ5000名の方にチャンスがあります。可愛らしいオリジナルピコラグッズをぜひゲットしましょう。



【ヤマザキビスケット】くるくるわくわく♪ピコラ50thキャンペーン

【賞品】
【Aコース】（６個購入で１口）　「ピコラクッション」 … 25名
【Bコース】（３個購入で１口）　「ピコラブランケット」…　500名
【Cコース】（1個購入で１口）　「ピコラぷっくりシール」 … 4475名



【応募方法】
パソコンまたはスマホの場合は、対象製品のレシートを撮影してキャンペーンサイトにアクセス。応募フォームに進んで、必要事項の入力と撮影した画像をアップロードしてください。
ハガキの場合は、レシートを郵便ハガキまたはキャンペーンサイトからダウンロードできる専用応募ハガキに貼り、必要事項を明記し、切手を貼って投函してください。

【応募最終締切】　2026年12月31日(木) 23:59
※レシートの対象期間　2026年9月1日（火）～12月31日（木）

【キャンペーンサイト】　https://picolacp.jp/

【問い合わせ先】　ヤマザキビスケット（株）お客様相談室
電話 0120-945-522　受付／9：00～17：00　月～金（土・日・祝を除く）

御乗印が運んでくれる･･･
白壁出会い日記

山口デスティネーションキャンペーンに合わせて登場した「**御乗印**」。(600円税込)
山口県産ヒノキを使った、木のぬくもりが伝わる記念札は全部で十種類。白壁店は、現地訪問賞である**柳井駅の駅名標ピンバッジの引換窓口**をお手伝いしています。
この小さなピンバッジが、思いがけない出会いを運んでくれています。
神奈川から、大阪から、御乗印とピンバッジを目当てに、わざわざ柳井まで足を運んでくださるお客様。その行動力には驚くばかりです。
好きなもののためなら距離も何のその。鉄道ファンの皆さんの「てっちゃん魂」に、こちらまで元気をいただきます。
そして、うれしい発見もありました。**「柳井」というお名前(姓)の方**が、県内外からお越しになるのです。ご結婚で姓が変わる前に、同じ名前のまちを訪ねておきたいという方も。
私たちには見慣れた「柳井」の二文字が、その方にとっては大切な旅の目的になる。お話を伺いながら、まちの名前が少し違って見えました。
福島からお越しになった柳井さんとの出会いも忘れられません。ご親族に弘前の方がいらっしゃるそうで、店内の金魚ねぷたや、弘前との交流を伝える新聞記事を見つけて大興奮。御乗印をきっかけに訪れた店で、今度は弘前とのつながりが見つかる。遠く離れた土地同士が、目の前でつながったような、うれしいひとときでした。
一方で、柳井の人しか購入できないと思っていらっしゃったお客様も。そうではないと分かり、ピンバッジを手にして大喜び。そのお顔を拝見すると、お渡しする私たちまで嬉しくなります。
同じものを手にされても、そこに込める思いや旅の理由は、お一人おひとり違います。引換窓口に立たせていただいたおかげで、そんな当たり前のことを改めて教わっています。
小さな記念品から始まる、短いけれど心に残る会話。柳井に来てよかったと思っていただけるよう、まずは目の前のお客様を温かくお迎えしたい。
そんな気持ちで、今日も白壁店に立っています。

(記:賞文堂スタッフ)



※柳井駅の御乗印(左)と、現地訪問賞の非売品の数量限定柳井駅看板ピンバッジ(右)

金魚を掬って柳井を救う!?

「**金魚すくいは、柳井すくい**」。言葉遊びになりますが、数年前から、そんなことをイメージすることがあります。金魚を「掬う」と、柳井を「救う」。少々強引でしょうか。でも、口にするたびに、案外まじめに、そういうことかもしれないと思うのです。

白壁の町並みに揺れる金魚ちょうちんに、足を止め、写真を撮り、お店をのぞいてくださる方がいます。お土産の一匹が、遠くの町で「この金魚のちょうちん何？」という会話を生むこともあるでしょう。小さな金魚ちょうちんが人を呼び、柳井とのご縁をつないでくれる。随分と助けてもらっていると感じます。

柳井金魚ちょうちんのルーツである「金魚ねぷた」のふるさと、弘前市の皆さんとの交流も、その流れのひとつかもしれません。

金魚ちょうちんが結んでくれたご縁から、お互いの町を訪ね、祭りに参加し、顔の見えるお付き合いへと育ってきました。遠く離れた町同士が、金魚ちょうちんを通じて近くなる。こんな展開まで、小さな一匹が用意してくれていたとは。ありがたいことです。

そんな思いを、ひとつのデザインにしてみました。水色のポイの上に、赤い金魚ちょうちんがちょこん。まん丸の目に、ぽかんと開いた口。掬われて驚いているような、ほっとしているような、なんとも憎めない顔です。

「救われた金魚が、今度は柳井を救う」。そんな物語も重ねています。まちのことを考えると、つい難しい顔になります。でも、この一匹を見て、ふっと笑ってもらう。



「かわいいね」「柳井に行ってみようか」。そのひと言から、町歩きや、お店での出会いが始まるかもしれません。白壁の町並みの住人としてそんな入口を創っていきたいのです。

受け継いできた金魚ちょうちんに、今の私たちなりの楽しさを添えて、柳井の外へ連れ出してみたいと思います。

2027年は、この一匹とも進んでみようかなと考えています。言葉遊びは大いに結構。込める思いは、いたってまじめです。

金魚すくいは、柳井すくい。次はどんなご縁を掬ってくれるのか、楽しみです。

(記：木阪泰之)



世界が認める「書道」
～私たちが守りたいもの～

ちょっと嬉しいニュースが飛び込んできました。日本の「書道」が、ユネスコの無形文化遺産に登録される見通しとなったのです。私たち文具屋さんにとっても、何とも誇らしく、嬉しい知らせです。

創業以来132年、紙や筆、墨、硯、そして鉛筆や万年筆など、「書く」ための道具を扱ってきた木阪賞文堂。今回のニュースをきっかけに、改めて「書くこと」の意味を考えてみました。

書道というと、美しい文字や立派な作品を思い浮かべます。しかし、その入り口はもっと身近なところにあります。子どもたちが初めて筆を握る書写の時間。お正月の書き初め。少し緊張しながら筆を運ぶ、あの感覚です。

墨がはねる。手が汚れる。用紙まで汚してしまう。思うように筆が動かず、何度も書き直す。準備も後片付けもなかなかの手間暇です。

でも、そこがまた「いとをかし」。大いに結構ではありませんか。

何でも速く、簡単に、効率よく。そんな時代だからこそ、あえて手間暇をかけることに、今まで気づかなかった豊かさがあるように思います。

墨をすり、筆を整え、姿勢を正す。そして、ひと呼吸おいて一筆を運ぶ。

そこには、日々の忙しさの中で忘れがちな「間」や「ゆとり」があります。深呼吸をするように、心を整える時間。実は、これが今の私たちにとって、とても大切なことなのかもしれません。

もちろん、デジタルの便利さも素晴らしいものです。ただ、便利になることと、心が豊かになることは、必ずしも同じではありません。

今回、書道が世界に認められようとしていることは、単に昔からの文化を保存するということではなく、その価値を現代の暮らしの中で再発見する機会でもあると思います。

文化は、飾っておくだけでは受け継がれません。使い、親しみ、楽しんでこそ、次の世代へつながっていくものです。

私たち町の文具屋さんにできることは小さなことですが、筆を持つきっかけをつくり、書く楽しさを伝え続けていきたい。

少しくらい墨がはねても、手が汚れてもいい。そんな心のゆとりを大切に。(;'∀')

書くことを通じて、人の心や暮らしが少しでも豊かになれば、これほど嬉しいことはありません。　　(記：賞文堂スタッフ)



※下手字がむしろ清々しいぞ!!。

元気の出る ことだま 言霊

日本の人たちや文化が大好きなんだ。
いつも誇り高く、
忠実で優しいしね。
ここの人たちの生き方を
とても尊敬しているんだ。

―マイケル・ジャクソン―
（シンガーソングライター・ダンサー）



「そうだ！ 賞文堂！ 行こう！」



※こちらのデザインのタイトルは、
羊(よう)着(き)ちゃったねぇ2027!

“書道”がユネスコの無形文化遺産に登録される見通しとのニュース。私たち文具屋さんにとっても、何とも嬉しい知らせです。AIやデジタル技術が進化し、誰もが簡単に整った文章を作れる時代になりました。便利になる一方で、その人らしい文字や、心のこもった一筆には、これまで以上の価値が生まれるのではないでしょうか。

さて、年賀状のご利用が年々減少しています。しかし、だからこそ今「手書き」の良さを見直し、再発見する機会なのかもしれません。上手な字でなくても大丈夫。筆ペンでも大丈夫。たった一枚でも大丈夫。大切なあの人を思い浮かべながら添えるひと言には、何ものにも代えがたい温かさがあります。木阪賞文堂では、柳井らしい金魚ちょうちんデザインの年賀状もご用意しています。「書道」は、決して過去の文化ではありません。むしろ、これからの時代、**手書きが人と人との心をつなぐ大きな武器になる!?**。そんな思いを胸に、町の文具屋さんとして「書くこと」の楽しさを、これからもお伝えしていければ幸いです。因みに、筆ペンなら“ぺんてるさんの中字“(顔料インキ)がおススメですよ。　　（記：賞文堂スタッフ）

（有）木阪賞文堂
■スタッフ人数 10名
（中央店9名、白壁店1名）
■モットー「当社の商品・サービスを通じてお客様を幸せにすること!」
■住所　〒742-0035　山口県柳井市中央3-278-2(柳井グリーンマンション前)
■連絡先　TEL0820-22-0150
E-mail:info@sirakabe.com